

第1学年 生活科学習活動案

盛岡市立仁王小学校

指導者 菅原修一

単元名 「いきもの だいすき(春)」

単元について

子どもたちは、前単元「はるがいっぱい」において、校庭や通学路、近くの公園などの春探しに出かけ、身近な自然と触れ合う活動を行ってきた。その中で、樹木や草花、虫などの自然に直接触れながら、友達と楽しく活動する姿が多く見られた。また、見る・においをかぐ・触るなどの諸感覚を使って気付いたことを教師や友達に話したり、友達から教えてもらったことを自分でもやってみたりするなど、意欲的に自然とかかわろうとする姿も見られた。

そこで、一人一鉢のアサガオ栽培と、春と秋に学校周辺の草花や葉、虫と触れ合う活動で構成されている本単元において、子どもたち一人一人の情緒的なかかわりを大切にしながら、身近な動植物と体験的・継続的に触れ合わせたい。そのような活動を通して、子どもたちに、それらが自分と同じように生命をもって日々成長していることに気付かせ、親しみや愛着をもって命あるものを大切にしようという態度を育てたいと考えた。これは、学習指導要領・生活科の内容(6)「身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして遊びを工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」(7)「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていたり成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。」に迫るものである。

小単元「はないっぱいになあれ」では、一人一鉢でアサガオ栽培を行う。子どもたちには、お世話や観察を通して、アサガオの成長や変化を体験的に捉えさせ、生命の不思議さやすばらしさを感じさせながら所有感や愛情をもって大切に育てさせたい。小単元「くさばなやむしとあそぼう」では、学校周辺の身近な草花や葉・虫と触れ合う活動を行う。身近にある草花や葉でいろいろな遊びをしたり、虫を探して触れ合ったりすることを通して、子どもたちに身近な動植物と触れ合うことの楽しさを味わわせ、草花や葉の美しさや虫の生命力のすばらしさを感じさせたい。そして、11月までのアサガオの栽培活動と秋の身近な動植物との触れ合いを通して、子どもたちに命あるものの大切さに気付かせたい。このように長期間にわたって対象と繰り返しかわる活動を設定することによって、子どもは対象を自分と同化させてとらえたり、親しみや慈しみの心をもって接したりする姿へと変容していくものと考えられる。

小単元「はないっぱいになあれ」と「くさばなやむしとあそぼう」の支援にあたっては、子どもたちがアサガオや学校周辺の身近な草花や葉、虫と情緒的にかかわり続けていくことができるよう、次のことに留意していきたい。1つ目は、子どもたちが対象に思いや願いをもってかかわっていくきっかけをつくることである。そのために自分自身でアサガオの種を蒔いたり、水遣りをしたりする体験や、前単元「はるがいっぱい」の活動で楽しかったことやもっとうちがみたいことなどを交流し合ったりする。2つ目は、子どもたちが対象と情緒的にかかわりを続けていくために、子どもたちの様々なかかわり方や気付きを共感的に受け止め、価値付けるようにすることである。そのために、行動・発言・つぶやきなどから子どもたちの活動の様子や思いをよく見取る。また、場合によっては活動の方向性を広げる言葉がけを行ったり、意図的に友達と交流させたりして、さらに思いや願いをもって活動できるようにする。3つ目は、子どもたちの活動に広がりや深まりがみられようように、学習に適した素材や道具を必要に応じていつでも渡せるように用意したり、活動時間を十分に確保したりすることである。

このような支援を行いながら、どの子どもも自分なりの思いや願いをもって、アサガオや草花遊びをしたり、虫と触れ合ったりすることができるようにしたい。

目標

主目標

栽培活動や身近な動植物との触れ合いを通して、それらが生命をもっていることや日々成長していることがわかり、親しみや愛着をもって大切にしようという気持ちをもつ。

観点別目標

《関心・意欲・態度》

- ・ 身近な動植物の生態や成長に関心をもち、適切な世話を進んで行う。

《思考・表現》

- ・ 身近な動植物との世話やふれあい、観察を通して、適切な世話の仕方を考えたり、気付いたことや発見したことを自分なりに表現したりする。

《気付き》

- ・ 動植物の成長や変化を通して、自分と同じように動植物にも生命があることに気付く。

活動計画および評価計画（春5時間／全24時間）

（関心・意欲・態度【関】，思考・表現【思】，気付き【気】）

活動名	時	主な活動内容	具体の評価規準	未達成の場合の手立て	
はないっばいに なあれ 5月上旬～ 5月中旬	2 45分	1 自分の鉢にアサガオの種を蒔く。	・ これからアサガオを大切に育てようという気持ちをもって、親しみをこめて世話をすることができる。 【関 活動の観察】	・ 小さい種からどのように大きくなってほしいか、願いを引き出していく。	
		2 世話の仕方を調べ、水遣りをして、観察カードに絵や言葉・文で様子を表す。（以後、成長の記録をカードに随時まとめていく。）	・ 育てるために必要な世話の仕方を考えたり、アサガオの成長の様子や自分の気持ちを表したりすることができる。（思 カード、観察） ・ 花にも命があり、日々成長していることに気付く。 【気 観察、カード】	・ 教師と一緒に世話をしながら、小さな変化を取り上げ話題にしていく。	
くさばなやむし とあそぼう 6月	3 45分	1 草花や葉で自由に遊んだり、虫を探して触れ合ったりする。	・ 積極的に虫を探して触れ合おうとしたり、草花で楽しく遊んだりすることができる。【関 活動の観察】	・ 友達と一緒に活動することや、虫と草花を選択することを促していく。	
		60分 本時	2 草花や葉、虫ともっと活動してみたいことを存分に楽しむ。	・ 草花で工夫して遊ぶことができる。 ・ 虫のすみかや動きなどの特徴について考えながら触れ合うことができる。【思 観察、発表】	・ 子どもと一緒に活動したり、対話したりするなどの支援を行う。
		30分	3 草花や葉、虫と活動した様子を、観察カードに絵や言葉で表す。	・ 学校周辺にも小さな虫がたくさんいることや身近にある草花や葉でもいろいろな遊び方で楽しむことができることに気付く。 【気 カード、発表】	・ 楽しかったこと、発見したことなどを、子どもと対話しながら引き出していく。

本時の活動（4 / 24時間）

1 本時の活動と子ども

子どもたちは、前時まで、前単元「はるがいっぱい」の活動で楽しかったことやもっとしてみたいことなどの交流をきっかけに、花壇付近の原っぱで、草花や葉、虫などと自由に触れ合う活動を行ってきている。その中で、教師が子どもたちの様々なかわり方や気づきを共感的に受け止め、価値付けたり、意図的に広めたりすることにより、子どもたちは「いろいろな形の葉っぱを集めて、絵を描いてみたいな。」「アリさんに砂糖をあげて、運び方をじっくり見てみたいな。」など、次時の活動に対する思いや願いが膨らんできている。

そこで、本時の活動では、子どもたちがさらに花壇付近の原っぱの草花や葉、虫などと情緒的なかわりをもち続け、対象と思う存分に活動することができるように、次のことに留意しながら活動を進めていきたいと考える。

まず、膨らんだ思いや願いの実現に向かって、子どもたちが対象と十分にかかわることができるように、本時を60分で構成する。また、活動に広がりや深まりがみられるように、前時の製作物や活動写真を掲示したり、学習に適した素材や道具を必要に応じていつでも渡せるように用意したりする。導入では、子どもたちの活動時間を確保するために、草花や葉、虫と活動してみたいこと、活動のめあてと流れなどを短時間で確認し活動に入るようにする。展開では、前時の活動の様子をふまえて、行動・発言・つぶやきなどから活動の様子や子どもの思いを見取り、様々なかわり方や気づきを共感的に受け止め、価値付ける。そして、子どもたち一人一人が対象と情緒的なかわりを続けていくことができるようにする。また、行き詰まっている子どもには、活動の方向性を示す言葉がけを、活動が深まらない子どもには、思考を促す言葉がけを行ったり、意図的に友達と交流させたりして、子どもたち一人一人の気づきを深めるようにする。終末では、全体の場で子どもたちの気づきの深まりを具体的に紹介したり、称揚したりして、子どもたちの草花や葉、虫とこれからも遊びたい、触れ合いたいという思いや願いを高めるようにする。

2 本時の目標

《関心・意欲・態度》

自分の思いや願いをもって、虫を探して触れ合ったり、草花と楽しく遊んだりしている。

《思考・表現》

虫のすみかや特徴について考えながら、虫と触れ合ったり、草花と自分なりに工夫しながら遊んだりすることができる。

《気づき》

学校周辺にも小さな虫がたくさんいることや、身近な草花や葉でいろいろな遊びをすることができることに気付く。

3 本時の展開

場の設定・準備物	活動の流れ	予想される子どもの思いや願い	教師の支援と評価 (研究にかかわる手立て 評価)
・前時の製作物と活動写真	全体 5分 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">活動のめあて・流れを確認する。</div>	・タンポポと他の花を組み合わせて指輪を作りたいな。 ・友達とシロツメグサで大きな冠を作りたいな。	前時の製作物や活動写真を掲示したり、草花や葉、虫と活動してみたいことを発表させたりして、草花や虫にかかわろうとする意欲を高める。

<p><活動場所></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> けやきホール 黒板 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ベランダ </div> <p>2年生花壇わき</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> プール </div> <p><用意する 素材や道具></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビニル袋 ・シャベル ・たらい ・水 ・砂糖 ・のり ・セロハンテープ ・画用紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・くさばなやむしともしっかりとあそぼう。 <p>個（グループ）45分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 草花や虫との触れ合いを広げたり、深めたりする。 </div> <p>全体10分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 活動を振り返る。 </div> <p>【挨拶】</p> <p>【後片付け】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな形の葉っぱを集めて、絵を描いてみたい。 ・アリのえさの運び方をじっくり見てみたい。 ・カタツムリの遊び場を作りたい。 ・笹舟を作ったよ。浮かべてみたい。 ・いろいろな形の葉っぱを集めたよ。画用紙に貼って本にしたい。 ・タンポポで指輪を作ったよ。次はシロツメクサでネックレスを作ってみよう。 ・草花でごちそうを作ったよ。大きな葉っぱのお皿に盛りつけよう。 ・草笛の吹き方を分からない友達に教えてあげよう。 ・どうしたらオオバコ相撲で勝てるかな。友達にコツを聞いてみよう。 ・土の下にはミミズの他にどんな虫がいるかな。シャベルを持ってきて掘ってみよう。 ・ダンゴムシの赤ちゃんは白い色をしているよ。先生に教えよう。 ・カタツムリが木の枝を上手にわたったよ。上手にひももわたれるかな。 ・友達と一緒に、草花で指輪やネックレス、冠など、いろいろな飾りを作ることができてうれしかったです。 ・アリはみんなで助け合ってえさを運んでいました。仲がいいなあと思いました。 ・友達が「カタツムリは食べたものと同じ色のうんちをするんだよ。」と言っていました。今度えさをあげてみたいと思います。 	<p>前時の活動を踏まえて、本時の活動にかかわる、自分の思いや願いをもっている。</p> <p>【関 観察、発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習が広がり、深まるような素材や道具を用意し、必要に応じて選択できるようにする。足りない場合は、あるもので工夫することができるように促していく。 ・なかなか活動に入れない子どもがいた場合は、対象が同じ子どもと一緒に活動することを促したり、教師と一緒に活動したりする。個々の活動を共感的に受け止めるとともに、言葉がけをしたり、価値あるかかわりや気付きを広めたりして、情緒的なかかわりを価値付けるようにする。 虫のすみかや特徴について考えながら、虫と触れ合うことができる。また、草花と自分なりに工夫しながら遊んだりする。 <p>【思 活動の観察、つぶやき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の楽しさのみを発表する子どもには、教師から観点を投げかけ、思いや願いを発表できるようにする。 子どもたちの活動後の思いや願いを発表させる中で、教師がよさを認めたり、広げたりして、気付きの深まりを実感させる。 学校周辺にも小さな虫がたくさんいることや、身近な草花や葉でいろいろな遊びをすることができることに気付く。 <p>【気 活動の観察、発言】</p>
--	--	--	---